

経済情勢

(9月の経済指標を中心に)

(全国) 景気は、緩やかに持ち直しているものの、一部に弱さがみられる。

(中国) 景気は、持ち直しの動きに足踏みがみられる。

先行きについては、米国の通商政策の影響、日中関係の動向、金融市場の変動、物価上昇などによる経済活動への影響が懸念される。

(全国)

個人消費	一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数(9月)は前年を下回った
設備投資	機械受注(9月)は、前年を上回った
公共投資	公共工事請負額(9月)は前年を上回った
輸出	輸出金額(9月)は前年を上回った
生産動向	横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる
雇用情勢	改善の動きに足踏みがみられる

(中国)

個人消費	持ち直しの動きに足踏みがみられる
住宅投資	新設住宅着工戸数(9月)は前年を下回った
公共投資	公共工事請負額(9月)は前年を上回った
輸出	輸出金額(9月)は前年を下回った
生産動向	このところ弱含んでいる
雇用情勢	改善の動きに足踏みがみられる

1. 景気動向指数・景気ウォッチャー調査(9月)

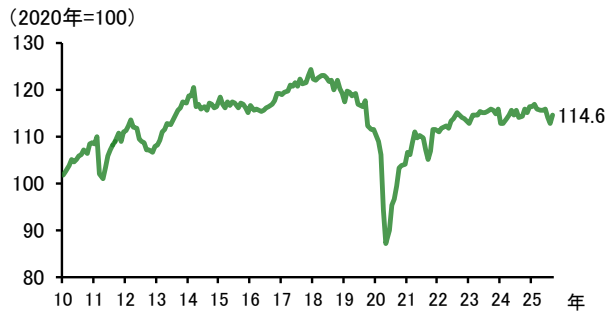
景気動向指数(全国C I)は、一致指数は3か月ぶりに上昇、先行指数は5か月連続で上昇した。

景気ウォッチャー調査(現状判断D I)は、全国は5か月連続で上昇、中国は2か月連続で上昇した。

● 景気動向指数(C I)

(一致指数)

・114.6(前月差+1.8ポイント)と3か月ぶりに上昇。

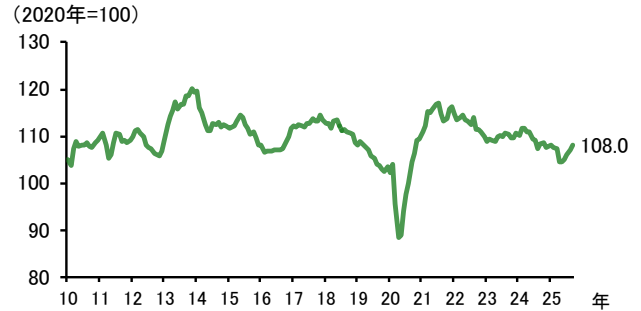


C I 一致指数(前月差) 1.8

指標名	寄与度
投資財出荷指数(除輸送機械)	0.37
鉱工業生産指数	0.36
商業販売額(卸売業)	0.35
輸出数量指数	0.26
鉱工業用生産財出荷指数	0.19
商業販売額(小売業)	0.18
営業利益(全産業)	0.13
労働投入量指数(調査産業計)	0.00
耐久消費財出荷指数	▲0.02
有効求人倍率(除学卒)	▲0.04

(先行指数)

・108.0(前月差+1.0ポイント)と5か月連続で上昇。



C I 先行指数(前月差) 1.0

指標名	寄与度
最終需要財在庫率指数(逆)	0.57
マネーストック(M2)	0.37
新設住宅着工床面積	0.28
消費者態度指数	0.16
東証株価指数	0.11
中小企業売上げ見通しD I	0.10
鉱工業用生産財在庫率指数(逆)	▲0.03
日経商品指数(42種総合)	▲0.14
新規求人数(除学卒)	▲0.63
実質機械受注(製造業)	
投資環境指数(製造業)	

注: 1. 景気動向指数(CI)は景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としている。資料は内閣府「景気動向指数(速報)」。

2. 景気動向指数とは、生産、雇用など重要かつ景気に敏感な指標の動きを統合することによって、景気の現状把握および将来予測に資するため作成されたもので、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3本の指数がある。

● 景気ウォッチャー調査(D I)

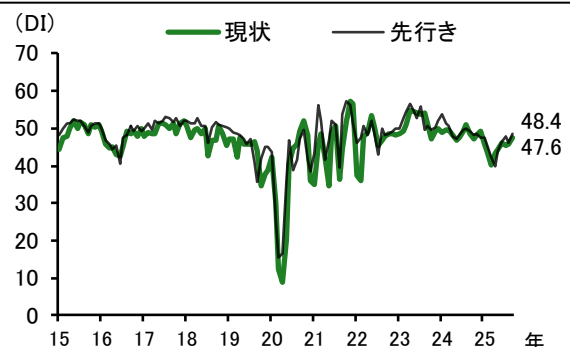
(全国)

- ・現状判断D Iは、47.1(前月差+0.4ポイント)と5か月連続で上昇。
- ・先行き判断D Iは、48.5(前月差+1.0ポイント)と5か月連続で上昇。



(中国)

- ・現状判断D Iは、47.6(前月差+1.8ポイント)と2か月連続で上昇。
- ・先行き判断D Iは、48.4(前月差+2.2ポイント)と2か月ぶりに上昇。



注: 1. 景気ウォッチャー調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的としている。資料は内閣府「景気ウォッチャー調査」。

2. 季節調整値

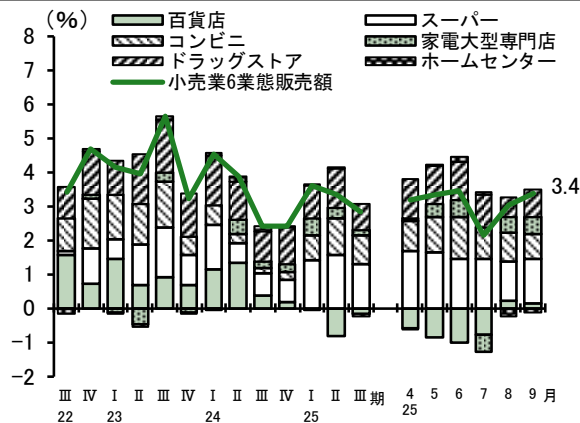
2. 個人消費（9月）

（全国）一部に足踏みが残るものの、持ち直しの動きがみられる。

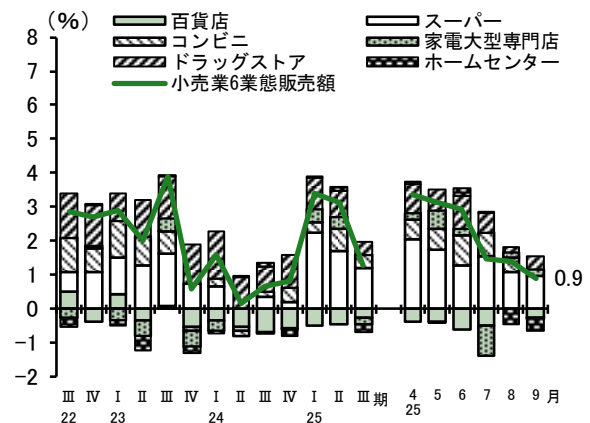
（中国）持ち直しの動きに足踏みがみられる。

● 小売業6業態販売額 [対前年伸び率]

（全国）スーパー、ドラッグストアなどを中心に増加し、46 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+3.4%）。小売業6業態全体の消費傾向としては、買い上げ点数の減少や安価商材へのシフトといった節約志向がみられるものの、コメなどを中心に食料品価格の高騰が販売額を押し上げている。



（中国）スーパーなどを中心に増加し、11 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+0.9%）。全国同様、節約志向がみられる中、コメなど食料品価格の高騰が販売額全体を押し上げている。ただし、いずれの業種も全国の伸びを下回っており、小売業6業態全体の伸び率は6 カ月連続で鈍化した。

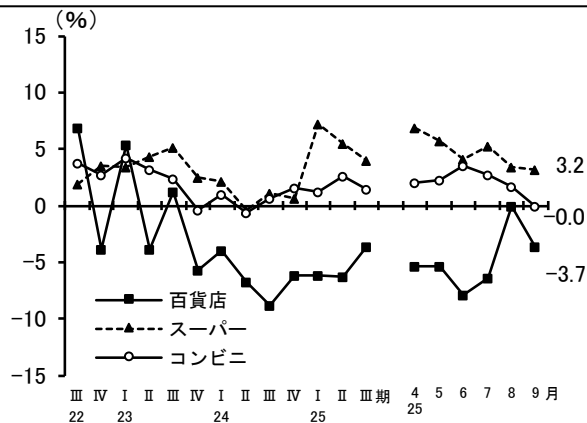


注：1. 全店舗ベース 2. 小売業6業態は、百貨店、スーパー、コンビニエンスストア、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

○ 百貨店・スーパー・コンビニエンスストア販売額 [対前年伸び率]

（中国）

- 百貨店は、前年同月対比で営業日数が1日減だったことに加え、雨天が多く来客数が減少したことなどから、2カ月ぶりに前年比マイナス（前年同月比▲3.7%）。
- スーパーは、引き続きコメの価格上昇による販売額増加が全体を押し上げていることなどから、11カ月連続で前年比プラス（同+3.2%）。ただし、プラス幅は鈍化傾向にある。
- コンビニは、節約志向による買い上げ点数の減少などから鈍化傾向が続く。今月は雨天が多く来客数が減少したこともマイナス要因となり、7カ月ぶりに前年比マイナス（同▲0.0%）。

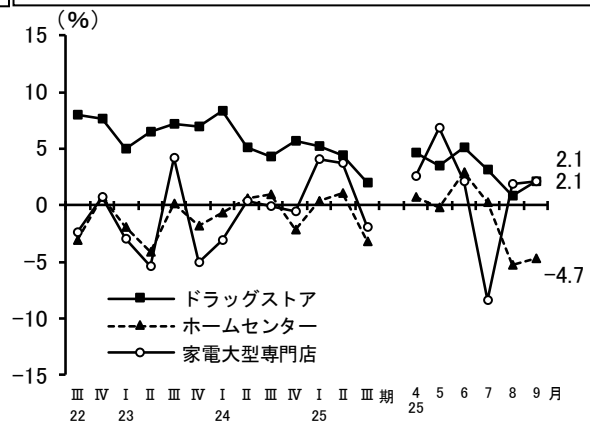


注：全店舗ベース
資料：経済産業省「商業動態統計月報」

○ ドラッグストア・ホームセンター・家電大型専門店販売額 [対前年伸び率]

（中国）

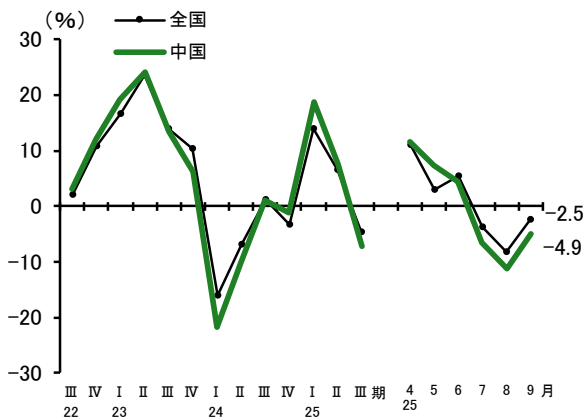
- ドラッグストアは、価格上昇によるコメの販売額増加に加え、調剤薬局の新設により調剤医薬品等が好調だったことから45カ月連続で前年比プラス（前年同月比+2.1%）。
- ホームセンターは、先月に続き、台風や南海トラフ地震臨時情報発表による防災・備蓄品需要があった前年同月の反動から、2カ月連続で前年比マイナス（同▲4.7%）。
- 家電大型専門店は、サポート終了に伴いパソコンの買い替えがみられたほか、残暑によりエアコン類がよく売れたことなどから、2カ月連続で前年比プラス（同+2.1%）。



● 新車登録・届出台数(乗用車) [対前年伸び率]

(全国) 小型、普通乗用車が減少し、3カ月連続で前年比マイナス(前年同月比▲2.5%)。一部車種で納期の長期化などがみられるほか、新型車の市場投入が少ないことや、新型軽モデル発売を抑える一部メーカーで購入の先延ばしがみられたことなどもマイナスに影響した。

(中国) 小型、普通乗用車が減少し、3カ月連続で前年比マイナス(同▲4.9%)。一部車種で納期の長期化などがみられるほか、新型車の市場投入が少ないことや、一部メーカーで購入の先延ばしがみられたことなどもマイナス影響にした。



資料：中国運輸局「新車登録・届出状況」、
(一社)全国軽自動車協会連合会「軽自動車新車販売統計」

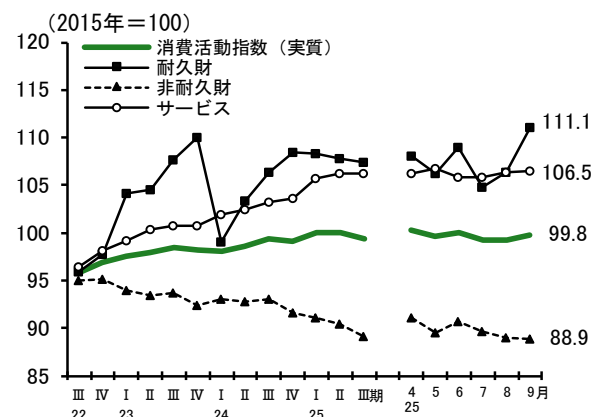
● 消費活動指数(実質)

(全国) 消費活動指数(季節調整済)は99.8(前月比+0.5%)と、2カ月連続で前月を上回った。

・耐久財は、スマホ・パソコンなどの家電が好調に推移したことなどから、前月を上回った。

・非耐久財は、衣料品や食料品が低調に推移したことなどから、前月を下回った。

・サービスは、飲食業などが低調だったものの、宿泊業などが好調に推移したことなどから、前月を上回った。



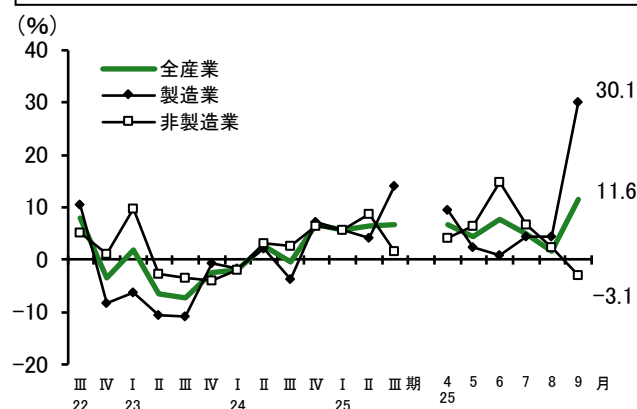
4. 設備投資・公共投資（9月）

機械受注（全国）は、製造業は前年を上回ったものの、非製造業は前年を下回った。
公共工事請負額は、全国、中国ともに前年を上回った。

● 機械受注額 [対前年伸び率]

（全国）

- 12 カ月連続で前年比プラス（前年同月比+11.6%）。
- 製造業（同+30.1%）は、大型案件のあった化学が大きく増加したほか、非鉄金属、はん用・生産用機械なども増加し、12 カ月連続で前年比プラス。
- 非製造業（同▲3.1%）は、運輸業・郵便業などが増加したものの、通信業、情報サービス業などが減少したことから、7 カ月ぶりに前年比マイナス。



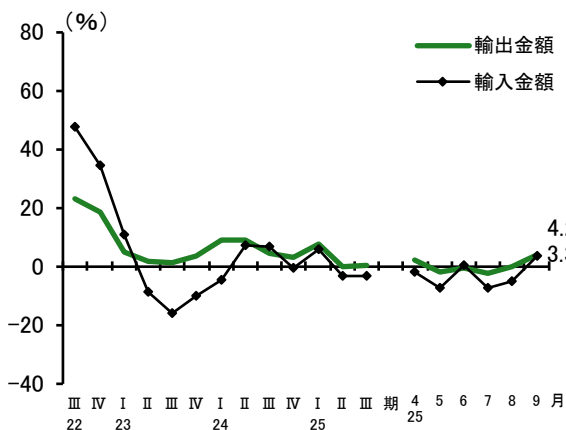
5. 輸出・輸入(9月)

輸出金額は、全国は前年を上回ったものの、中国は前年を下回った。

● 輸出・輸入金額 [対前年伸び率]

(全国)

- ・輸出金額は5カ月ぶりに前年比プラス(前年同月比+4.2%)。円安への振れ等が輸出金額を押し上げたほか、品目別では、アジア向けの半導体等電子部品などが増加した。自動車は米国向けが低調だったことで輸出金額が減少したものの、アジア・欧州向けが増加したことから輸出数量はプラスとなった。
- ・輸入金額は3カ月ぶりに前年比プラス(同+3.3%)。石炭や原油などの鉱物資源が減少したものの、アジアからの電算機類(含周辺機器)や通信機などが増加した。



6. 生産動向 (9月)

(全国) 横ばい圏内ながら、一部に弱さがみられる。

(中国) このところ弱含んでいる。

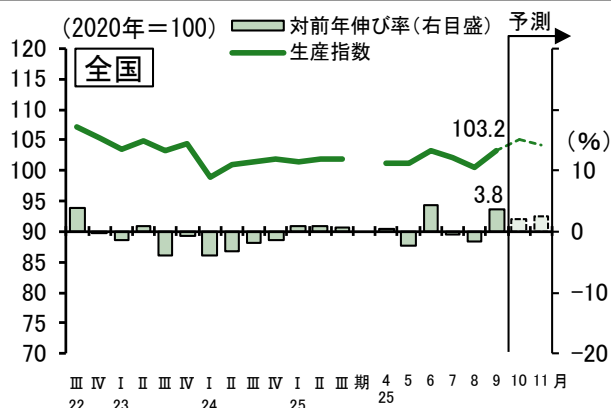
● 鉱工業生産指数 (総合)

(全国)

- 生産指数 (季節調整済) は、103.2 (前月比+2.6%) と3カ月ぶりに前月を上回った。中国・台湾向けに半導体等製造装置の需要があった汎用・生産用・業務用機械のほか、医薬品の増加等により化学が大きく上昇するなど、幅広い業種で上昇がみられた。
- 生産指数 (原指数) は前年同月比+3.8%と3カ月ぶりにプラスとなった。

(中国)

- 生産指数 (季節調整済) は、半導体等製造装置などの汎用・生産用・業務用機械や、医薬品等が増加した化学が大きく上昇したことにより、99.6 (前月比+1.9%) と2カ月連続で前月を上回った。ただし、電気機械、自動車、鉄鋼など主要業種は低下しており、全体では低水準にとどまっている。
- 生産指数 (原指数) は、前年同月比▲3.4%と6カ月連続でマイナスとなった。



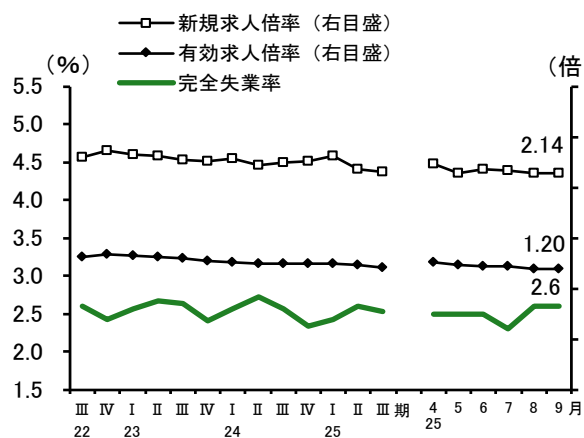
7. 雇用情勢(9月)

全国、中国ともに、改善の動きに足踏みがみられる。

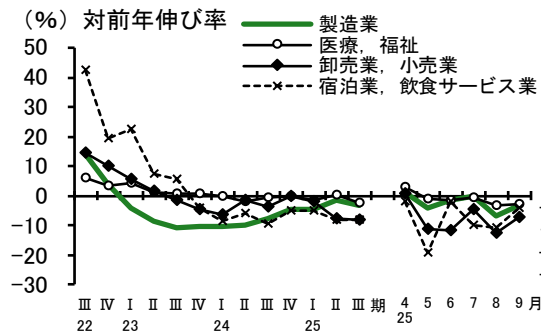
● 完全失業率、有効求人倍率、新規求人倍率

(全国)

- ・完全失業率は2.6% (前月差±0.0ポイント) と横ばい。
- ・有効求人倍率は1.20倍 (同±0.00ポイント) と横ばい。
- ・新規求人倍率は2.14倍 (同▲0.01ポイント) と3カ月連続で低下した。



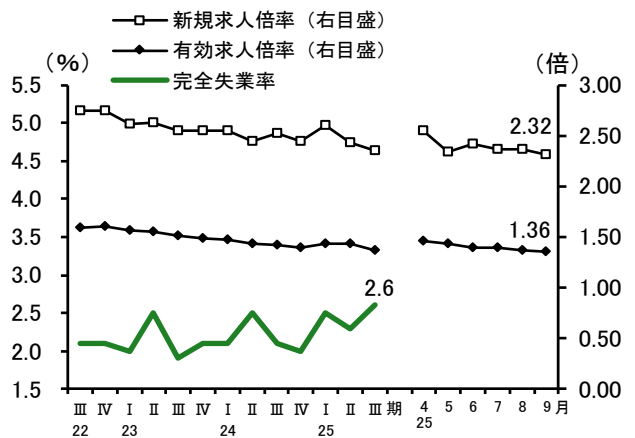
主要産業における新規求人数の推移(全国)



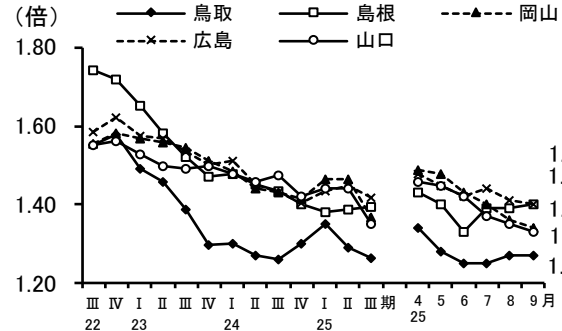
注：完全失業率の月次、有効求人倍率、新規求人倍率は季節調整値、完全失業率の四半期は原数値
資料：総務省「労働力調査報告」、厚生労働省「職業安定業務統計」

(中国)

- ・7-9月期の完全失業率(原数値)は2.6%と、前年同期と比べ0.5ポイント上昇した。
- ・有効求人倍率は1.36倍(前月差▲0.01ポイント)と5カ月連続で低下した。
- ・新規求人倍率は2.32倍(同▲0.05ポイント)と2カ月ぶりに低下した。



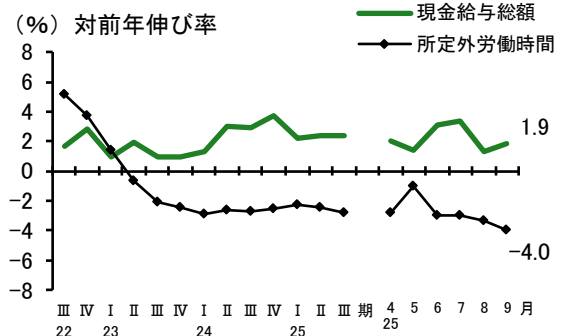
有効求人倍率の推移(中国5県)



● 現金給与総額、所定外労働時間

(全国)

- ・現金給与総額は45カ月連続で前年比プラス(前年同月比+1.9%)。
- ・所定外労働時間は、27カ月連続で前年比マイナス(同▲4.0%)。うち製造業は3カ月連続で前年比マイナス(同▲1.4%)。



注：1. 事業所規模5人以上の指数(2020年=100)の対前年伸び率 2. 最新月は速報値
資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」